



元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2019年05月20日 第919号「週刊五十嵐レポート」

ツキディデスの罠

「ツキディデスの罠」とは、新興勢力が台頭し、既存勢力の不安が増大すると、しばしば戦争が起こるということを意味する言葉。古代ギリシャの歴史家ツキディデスがペロポネソス戦争が不可避なものにしたのは新興国アテネに対するスパルタの恐怖心であった、と記したことに由来。(大辞泉より)

1970年～90年代にかけて日本は自動車、家電などの輸出産業で米国を追い上げ、日本のGDPが米国のGDPの約60%に届きそうになると、すかさず米国は貿易摩擦を手法に日本を叩いた。今、日本のGDPは米国の30%に満たなくなり、米国は日本に対して脅威にすら感じなくなった。

中国のGDPは米国の70%に手が届くようになって、数年後には米国を抜き去る状況が出てきた。米国は脅威を感じ始めた。2016年オバマ政権はTPPにより中国を孤立させようとした。しかし、2017年トランプ政権になりTPPを脱退、中国サイドはほっとしていた。

今になって米国が慌てているのが「5G」。米国は油断していた。5Gがこんなに脅威になることに。5Gの上位企業は、「ファーウェイ(中国)」、「エリクソン(スウェーデン)」、「ノキア(フィンランド)」、「ZTE(中国)」。

米国企業が入っていない。米国が異常までにファーウェイを叩くのはこういう理由があるから。ランチェスター経営では、強者の条件は、1. 1位であること。2. 市場占有率を26%以上。3. 2位との間に10:6以上の差をつけておく。自社の粗利益を多くし、競争相手の粗利益を少なくし、競争力を低下させることが強者の戦略になる。米国の中国に対する手は強者の戦略通りということになる。

映画「レッドクリフ」(三国志の中の赤壁の戦い)では、勝利した呉の周瑜は敗れた魏の曹操に、「戦争には勝者はいない」(どちらも損害は大きい)と告げた。中国人にはこの言葉が脈々と伝わっている。「孫子の兵法」では、百戦百勝は、最善ではない。戦わずして勝つことが最善であると言っている。米国とは忍耐(「韜光養晦(とうこうようかい) 爪を隠し、時期を待つ」)。その間、西進(東南アジア、アフリカ、ヨーロッパ)に活路(一帯一路)を見出す。

ちょっと
気になる出来事

「人工知能(AI)の歴史、現状と未来について」をテーマにした話を聞いた。今は、第3次ブーム。

人工知能とは、「人工的に人間の知能を模倣する概念および技術」。

「機械学習」とは、コンピュータに特定の特徴量を与えることで、データ分析の精度を上げ、新たなデータの分類や最良の選択を決めるもの。

「深層学習」とは、人間の脳神経回路をモデルにした多層構造アルゴリズムを用い、特徴量の設定や組合せをAI自ら考えて決定するもの。

最近困ったことが起きているとのこと。笑えない本当の話。日本の大企業・中堅企業がAIの導入を検討している。企業のトップはAIについては無知。最新技術だから、とりあえず導入しろと部下に指令を出す。部下は経営の全体像も分からず、AI導入が目的になって、とんちんかんなことになっている。AI企業は、まず企業のトップがAIを理解し、何の目的のためにAIを導入するのかを考えてほしいと。目的と手段を履き違えている。

私は、「ウソでしょう」と聞き返した。しかし、日経ビジネス5月20日号では特集「AIバブル 失敗の法則」にその事が書いてあった。戦略はど
こに行ってしまったのか……。



一口メモ
知識

自分が悪くないなら幸せなはず

私たちは、不幸の原因は自分の外にあるように思っています。

「経済状態が悪いから」「血圧が高いから」「借金さえなければ」

「あいつがいなければ」「妻がもっとしっかりやってくれたら」……など

「他のだれか」や「何か」のせいにするのです。

他人のアラを自分の不幸の原因にして、自分は悪くないと思っています。

しかし、自分が悪くないならば、ほんとうは幸福なはずなのです。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムッレ・スマナサーラ)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時～6時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com



新経営の志手帳